

第五章 新たな経営

一 時代の推進

1 大正時代の概観

大正の御代は明治三十七、八年の日露戦争の勝利によって、日本の東亜における地位は確立し、各国との協約も結ばれ、懸案の諸問題も次々に解決を見て、国際的地位が一段と向上し、近代国家として欧米から対等に認められ、世界の強国として国際社会において活躍することのできた時代である。

大正の御代は十五年ここに於いて六十有余年の昔を思い回顧の念しきりに湧く。大正元年日高の総人口三万九千人は昭和四十年にしてすでに十二万二千三百余人と膨張を見せた。

本道の東南に位する日高の開発に伴う栄え行く姿である。そして数多くの試練を突破した雄々しい姿でもある。日高の海もこの時代に入ると、大正二年函館―日高線命令航路が開かれ、幌泉に毎月四回、五回の就航を見るようになり、次第に海運の便は拡充されていった。浦河港にも内地漁船の出入が目立って活況を呈し、港の修築がいよいよ始められた大正十二年の黎明、浜の胎動は間断なく続けられた。やがて誕生の日の近いことを思わせた。新時代の漁撈は発動機船によらねばならない。大正十三年浦河の港に初めてその姿を現はした。大正末期の測候所の設置は浜の男にとって海への活動意欲を大きく燃やしたものであった。

しかし陸上の交通の不便はこの頃にはいたっても、旧態依然として定期の幌馬車が全盛を誇り、ラッパを吹き鳴しては静内、様似間の国道を走っていた。しかし様似以東幌泉にいたる道路の不便は例えようもなく、ことに冬島、幌満間の難所は想像以上であった、海岸道路の開削こそは地方住民の悲願であったが、熱心な陳情請願によって、ついに大正十五年さしもの難関道路も立派に完成を見住民は喜びに浸った。

浦河に日高自動車会社が設立されたのは大正九年のこと、そして六月にはさらに北日本自動車株式会社も設立されたので、幌馬車も遠からず後退を余儀なくされることが予想された。

果して大正十二年から乗合自動車が始めて国道を走るようになった。浦河から東、様似トンネルの完成、冬島にいたる日高耶馬

溪に沿う十万円の舗装道路もできた。西は鉄道が静内までのびて、日高路にバスが疾駆するようになった。荒れ果てた野はひろがり、いばらの道の果てしなく続いていった日高の自然に見る逞しい開発であった。赤心社を始めとする各地域の造田と、農耕地開発の企ては素晴らしい速度を見せていた。

灌漑、土工の工事に目まぐるしい程の活動が続けられ、沃野の拡張に余念がなかった。牛馬の飼育も民間に普及して競馬場が設けられ馬市も定期的に開かれた。有畜農業も真剣に考えられ、酪農業も芽生えて来た。

特に大正三年第一次世界大戦が起って、連合軍に参加した我が国は、連合軍への物資供給の必要から全国的に経済の発展をもたらしたが、日高もそのひびきに洩れず海陸の物資に拍車がかけられた。

当時木材、雑穀、青豌豆、こてば、小豆、澱粉等を貿易品として、その価格は驚くべき高価なもので農村は豊かになった。

開墾は進み、奥地には開拓者の住居が次第に増加して来た。しかしそれも一時的な現象に過ぎなかった。大正七年戦が終わると、ヨーロッパは再び旧に復したため、農産物の消費は激減し、その価格は著しく下落を示した。これが経済不振の因をなして、大正九年頃は日高への影響がはつきり現われて来た。けれども米価のみは高騰の一途をたどって、大正七年の一升五十銭から大正八年は六十六銭にはね上ってしまった。好況時の農村の喜びは急転して苦悩の色が濃くなり、畑作への希望は失われ米作に着眼しはじめた。この動きは全道に拡大されていったが、当時各地域は大正元年以来水田耕作熱が高まって、造田の企てがすでに止められていた。

考えて見ると、このことは時勢の動きを先見した賢明な生活設計であった。この後の水田の開発は目覚しく、大正末期にいたって日高の水田は五千四百四十五町歩におよんだ。

もちろん米価の変動は免れぬことながら、大戦後の高騰を契機としてこのように水田の増加を見たことは、農村の発展を意味するものである。こうした山と海の活発な動きの中に、町には電灯がとり、電話がつき、ラジオが持ちこまれ、弁土と楽隊付きの映画が、オールトーキーになった。すべてが物珍らしく、驚異的であった。

町の施設も次第に備わって管内各町の面目は大いに改まった。

2 昭和展望……日本の歩んだ道

先史の昔から日高の歴史は幾多の変遷を続けながら、昭和の御代にたどりつき連続として絶ゆることのない推移が続けている。その

開発は極度に進展を見せ、各種の産業も、道路橋梁の整備も、文化の発達も目覚しく、世人の日高に対する関心は深まって来た。ことに戦後における日高は、豊富な資源を包蔵する新天地として脚光を浴び、地下資源の学術的な調査も推進されつつある。森林資源も多く残されており、魚田の開発、酪農の振興と共に全道的に果すべき役割は大きい。

昭和二十三年十一月、日高総合開発期成会が誕生し開発計画が立案され、これを基礎として年次計画を定め、着々とその実現に邁進しつつある。

さて昭和四十有余年の 変遷の跡をたどる時、その歴史は余りにも波乱にとみ、その時代は苦難に満ちたものである。人々の平和を願う悲願が達せられなかったからである。

そして今日長い戦争の悪夢からさめた日本は、今なお戦の日の名残りをとどめている国土の上に、民主化された平和国家として再生の為の復興と再建に努力している。

総べての開発は敗北の償いであろうか。

ここに於て戦の惨害を体験した記憶は、何人の脳裡にもまざまざと甦って来るであろう。

思い起せば一九一〇年代の第一次世界大戦は、全世界を戦争にまきこんだが、戦争の痛手に戦が終わると世界の人々は再びこの惨劇を繰り返えされいように固く誓い合った。

一九二〇年代はそのため世界の到る処に、戦争絶滅の叫びが起り、永久に平和を守ろうとする運動が間断なく続けられた。けれども一九三〇年代を迎えると、世界は再び二大陣営に分かれ忌まわしい大戦争に突き進んだのである。一九二〇年代といえば、日本でも民主主義思想の傾向が次第に高まり、国民の政治的自覚が一層顕著なものとなって、自由を求める声が大きくなって来た時代であった。

社会主義運動や、労働運動が活発となったり、立憲政治の常道である政党政治も軌道にのり、初めて本格的な政党内閣も出現し、また国民多年の念願であった普通選挙も実施の機会を迎え、立憲政治の発達の上に一時期を劃するものがあつた。

さらにこの年代には西洋文化も国民の各層に浸透して、衣食住の上にも洋風化が進んだ。けれども一九三〇年代にいたるや、もり上がって来た国民の自由に対する圧力と拘束がはつきり現われて、権力によって思想文化、経済等あらゆる面に厳しい統制が加えられるようになった。

ことに世界恐慌の波及をうけ我が国は深刻な経済危機に直面し、再建を図ろうとして、色々と施策を試みたが事態は一向に改善されず、むしろ生活が苦しくなるばかりで、恐慌と社会不安の激化に依りて、国民は生活の希望を失ひ頼みの事業にはしる傾向が現われた。このことは社会の近代化が不十分であることと、政党内閣は産業界を支配していた財閥と結んで政権争奪に明け暮れて、国民生活の安定を顧みないところに起因している。それ故、国民は政党に対する不信と反感を抱くようになったが、これを利用して極端な国家主義、軍国主義が勢力を伸ばしはじめた。そして恐慌からのぬけ道を独裁政治と対外進出（対外戦争）に求めたのである。こうしてついに軍部は政治上の支配権を確立して、一九三〇年代から一九四〇年代の初めにかけて、日本は無謀にも戦争への道を歩んでいた。これに反対するものは容赦なく処罰された。日本はドイツ、イタリアのファシズム政権と結束をため、アメリカ、イギリスなどの民主主義諸国に対立した。そして対外行動は張作霖爆死事件を皮切りに、満洲事変、日華事変となって止まることを知らなかった。その結果軍部は独裁体制を固め、財閥と結び、大東亜共栄圏の建設を呼号して太平洋戦争へと突き進んだのである。

戦争に突入すると国民生活の上に物心両面からきびしい統制が加わって来た。戦争完遂という目標に向ってあらゆるものは動員された。ことに昭和十七年六月、ミッドウエーの海戦の失敗が転機となって戦局が次第に不利になると、軍閥政府の弾圧政治はこれに比例して日に日に強くなり、国民の生活は一層苦境に追いやられた。動員は強化され、若い男子は悉く戦線に繰り出され、或いは徴用によって強制的に軍需工場や鉱山等で働かされた。

十八年秋には学園にも動員の手が伸び、学徒は学業をすてて戦場におもむき、中学生も、女学生も余すところなく工場に出て軍需生産にはげんだ。男子は戦闘帽を被り、ゲートルをまき、女子は鉢巻を結びモンペをはいて働く姿がいたる所に見られた。時に戦果を報ぜられてもこの頃になると、すべてに行き詰りが来ていることが次第に自覚された。けれども力の限り働いた。

十九年からは、日本の本土が直接B29の空襲下にさらされるようになった。防空訓練は繰り返され、本土決戦にそなえて竹槍訓練まで真剣に行はれた。近代科学を誇る兵器の対抗には余りにも滑稽であり、幼稚であつたが窮余の策として一億玉砕の日本精神を燃やし続けた。敗戦の色はいよいよ濃くなって来たのだ。政府は大都市の学童を地方に疎開させたり、建物の疎開を実施して、B29の空襲にそなえたが、十九年末からの猛烈な本土空襲が開始されると、めぼしい工場は次々に破壊され、大都市はたちまちにして焦土と化していった。生活物資は軍関係の一部の者を除いては日を追うて欠乏した。食糧、衣料などに闇が横行しはじめ、その上放漫な戦時財政によってインフレーションをまき起し、国民の生活は極度に悪化していった。こうした状況に対し国民の不満はげしくつ

のるばかりであったが、徹底的な思想、言論の統制下にあつては、これを訴える術もなく、ただ不安と絶望のうちに戦局の推移を見守るだけであつた。

しかし戦局に利なく、ついに無条件降伏の屈辱にあうこととなつた。ここに現代の歴史が始まつた。明治以後膨張した領土も、植民地も總べて失なわれ、本州、北海道、四国、九州と僅かな諸小島からなる狭小国土に縮められてしまった。

日本政府の統治権限は連合国最高司令官の制限下におかれ、厳格な占領政治が進められた。日本の民主化こそは占領政治の第一の要請であつた。戦争責任者の国際裁判、主権在民、戦争の永久放棄を宣言した新憲法の制定、農地改革、財閥解体、独占禁止、男女共学、六三制義務教育など画期的な大改革が次々に実施された。こうして日本は、一九四五年（昭和二十年）九月から民主国家として再生の歩みを始めているのである。そして平和な民主主義社会を建設するため国民挙つてそれぞれの立場において、力強い生活の営みに、たゆまぬ努力を続けている。しかし我々の周囲の現実には、敗戦に打ちのめされた物質的、精神的な多くの傷跡が深く冷たく残されている。戦争による犠牲は余りにも大きかつた。今我々は二度とこのような悲劇を繰り返さぬように、過去の日本に対する深い反省と、正しい批判をなさねばならない。この反省と批判によって、始めて現在の我々が世界の人々と共に歩むべき道が創造されるであらう。

アメリカは日本を早く自立させ、自由主義諸国の一員として極東防衛を分担させる必要を痛感した。そして急速に平和条約（サンフランシスコ講和会議）が締結されて、ふるい日本は解体し、占領状態からようやく脱し、ここに新しい日本として国際社会に復帰し、形式的にも独立の第一歩を踏み出したが、その独立は果してどのような意味をもっているのであらうか。

世界の情勢は、各国の平和への熱烈な希望にもかかわらず自由主義国と、共産主義国との対立をめぐって緊張は解けることなく、むしろ日に日に深まっている。このような困難な国際状況下にあつて、果して日本が真に日本的な民主主義をどのように育てた世界平和にどのように貢献してその役割を果たすかが今後の課題として残されている。

国連加盟によつて国際社会の一員に復帰もかゝつた。そして世界の平和と繁栄につくす機会を与えられた。今日日本の前途は世界各国から、アジアとヨーロッパのかけ橋として期待されるところが大きい。

終戦後二十有余年の歳月が流れた。日本の復興は急速に進んだ。戦が終つたあの日、あの時、何人が破壊と破滅から今日の見事な立ち直りを予想したであらうか。
北海道も、日高も、こうした復興の気運にのつて動いて行く。

一九三〇年代を中心に、昭和の御代の前後における関連ある社会の動きを通して日高の歩みを回顧して見る必要がある。

（昭和展望） 戦時体制略年表

年代	年	月	要 項
1910年代	大正	三、七	第一次世界大戦始まる
	大正	七、一	第一次世界大戦休戦条約調印
	大正	八、一	パリ講和会議が開かれる。ベルサイユ条約調印
	大正	九、一	国際連盟成立
	大正	九、一〇	普通選挙法公布 治安維持法実施
1920年代	昭和	二、三	金融恐慌が起り休業銀行が続出した
	昭和	二、三	張作霖爆死事件
	昭和	二、八	満州事変が起きた
	昭和	二、九	日本は国際連盟を脱退した
	昭和	二、三	蘆溝橋で日中両軍衝突日華事変が起きた。
1930年代	昭和	二、七	国民精神総動員週間実施
	昭和	二、七	日独伊三国防共協定が成立した防空法施行され、本道最初の防空演習実施
	昭和	二、四	国家総動員法公布
	昭和	二、五	重要産業法実施、ガソリン切符制となる
	昭和	二、五	工業就業時間制限令及び賃金統制令が公布された
	昭和	二、五	ノモンハン事件
	昭和	二、五	国民徴用令施行
	昭和	二、五	物価統制令実施
	昭和	二、五	此の歳悪性インフレが流行し食糧事情が悪化した

1940年代	
昭和一九、七 (一九四〇)	米穀通帳配給制実施。その他二〇余品種統制。
九	三國同盟調印。
〇	大政翼賛会が結実し発会式を行う。
一	北部軍管区司令部を札幌に設置した。
二	此の年本道に於て砂糖・青果物・肥料・煉炭・マッチに統制、肉類・味噌・醤油などに公定価格が附さ
三	大政翼賛会北海道支部が結成、北海道産業報国会発足。
四	国民学校令公布し四月より発足。
五	生活必需品物資統制令公布、石炭配給、全道切符制となる。
六	一日を期して興亜奉公日が定められ、町内会部落会が組織され、隣組、常会を開くこととなった。
七	翼賛壮年団北海道支部結成。
八	日本軍珠湾奇襲、米英に宣戦布告した。太平洋戦争勃発、決戦体制に入った。
九	大詔奉戴日設定(毎月八日)第一回実施。
一〇	食糧管理法を制定し主要食糧の統制実施。
一一	鮮魚介類が統制となった。
一二	米軍機日本本土初空襲
一三	企業整備令公布直ちに実施。
一四	此の年主食の定量配給、麦、芋を混合し米は二分搗に変わった。学生が勤労奉仕に多数動員された。
一五	戦力増強のため企業整備要綱決定これに伴う転廃業統出
一六	防空法による疎開命令が出された。
一七	女子挺身隊が組織された。
一八	満十七才以上、兵役編入決定

1940年代	
昭和一九、一 (一九四〇)	B29初めて東京を大空襲
二	対日処理に関する秘密協定がヤルタ会談で成立した
三	決戦教育非常措置要綱公布
四	胆振、日高沿岸米軍の艦砲射撃を受ける。
五	戦時教育令公布(学徒隊の組織)
六	アメリカ軍が沖縄を占領した。B29本道へはじめて侵入。国民義勇兵を組織。
七	タバコの配給一日三本となる。主食配給二合一勺(二〇〇グラム)一、〇六一カロリーに引下げ。
八	本道グラマンF六により空襲される。空襲により青函連絡十四隻中十二隻喪失。
九	広島と長崎に原爆を投下された。ソ連が対日宣戦を布告。
一〇	日本はポツダム宣言を受諾し、無条件降伏をした。太平洋戦争が終った。
一一	連合国による占領政治が開始され、東京に連合軍統司令部を設置。
一二	連合軍が本道に進駐し、道庁前にG・H・Q道民事務部を設置した。
一三	G・H・Qは財閥解体、資産凍結を指令した。
一四	農地改革を指令した(第一次改革実施)農地調整法の制定
一五	天皇の神格否定、軍国主義指導者の公職追放
一六	極東国際軍事裁判所が開延された。(二十三年十一月判決)
一七	自作農創設特別措置法施行、農地調整法の改正。
一八	日本国憲法公布、二二、五日本国憲法施行。
一九	独占禁止法公布。
二〇	教育基本法、学校教育法が制定された(六、三制)男女共学。

3 支庁長、郡長

開拓使支庁時代

三好 清篤

明治五、九就任

北垣 国道

明治六、五就任

浦河郡役所時代

明治十二年七月以降、日高は兩郡分轄制、三石以東、日高四郡、十勝七郡を管轄。

山田 謙

明治一三、二、一三就任

北川 誠一

明治一五、一、七就任

河田 保

明治一七、六、二三就任

日高七郡時代に移る

明治二十年六月より浦河郡役所の所管現在の七郡に変更、歴代の郡長は次のとおりである。

辰野 宗城

明治一九、二、二八就任

古川 浩平

明治二二、六、一就任

梁瀬 勇七

明治二三、三、四就任

畑 一嶽

明治二四、三、三一就任

迫田 喜二

明治二七、一、一二就任

浦河支庁時代

明治三十年十月郡役所廢して浦河支庁設置

歴代順	氏名	就任年月日	在職年月	備考
一	迫田 喜二	明治三〇、一〇、一〇	四年 八	十月郡長より初代浦河支庁長となる。
二	佐藤 志郎	明治三一、九、一四	二年 三	
三	粟津 九郎	明治三一、一、六	六年 六	
四	西 忠義	明治三四、六、一九	八年 三	日高実業協会組織 日高開発に尽瘁の治績極めて偉大小樽支庁長に転じた。
五	村本 初太郎	明治四二、九、八	六年 六	河西支庁長に転じた。

六	川越 常次郎	大正三、三、一	四年 六	苫小牧佐瑠太間の鉄道開設 網走支庁長に転じた。支庁々舎新築を推進した。
七	関崎 不二夫	大正三、八、一五	三年 二	
八	那須 正夫	明治六、九、二九	二年 九	
九	近藤 喜寛	明治九、六、二三	一年 〇	企画性あり多くの業績を残す。留萌支庁長に転じた。
一〇	高井 幸次郎	明治一〇、一五、一一	三年 七	第二期拓殖計画樹立に努力した。
一一	吉田 正二	明治一二、二、九	二年 八	御料地解放運動に努力した。
一二	茶谷 幸一	昭和二、七、一三	一年 六	御大典記念日高産業共進会開催第二期北海道拓殖計画発足
一三	守屋 癸清	昭和四、五、二三	一年 四	石狩支庁長に転じた
一四	森本 正雄	昭和五、八、二五	一年 五	桧山に転じた。

日高支庁時代

一	永山 政能	昭和七、一、二〇	一年 〇	日高支庁と改称（昭和七、八、一三）産業組合の育成に努力。
二	前田 豊次郎	昭和八、二、八	三年 八	道庁産業組合課長に転じた
三	野々瀬 恵一郎	昭和一二、八、三	二年 〇	日勝道路全通、静内橋、幌別橋竣工日高産業開発五ヶ年計画の方策樹立
四	織田 信知	昭和一二、一五、六	一年 四	日高線全通
五	古屋 裕	昭和一二、一〇、二〇	三年 三	太平洋戦争に突入
六	大塩 礼	昭和一二、一、二四	一年 〇	戦時下経営期
七	吉田 栄吉	昭和一二、二、二九	四年 四	終戦の混乱期
八	土橋 武士	昭和一二、三、二二	六年 六	終戦の混乱期
九	川崎 久輝	昭和一二、四、九	七年 〇	開拓民の導入に努力。日高総合開発期成会誕生。北海道庁廃止、北海道となる。知事公選。
一〇	佐々木 茂一	昭和一二、六、九	二年 〇	北海道開発庁発足、えりも道立自然公園に指定される
一一	長沢 豊太郎	昭和一二、八、一	七年 七	畜産、開拓問題に努力、十勝沖地震の事態拾収

日高支庁八十周年記念式挙行日高線ジーゼルカー運行開始

二九	前野 穰	〃二九、六、七一、〇
一七	佐々木 延男	〃三〇、五、二七、三一、〇
一六	齊藤 一也	〃三三、四、一九、一一、四
元	鈴木 勘蔵	〃三四、八、二三、六一、八
三〇	加畑 長一	〃三六、四、二五、一二、一
三三	安田 貴六	〃三八、五、二四、一一、二
三三	中山 忠衛	〃三九、四、八三、一三、二
三三	山田 光男	〃四二、五、二〇、一一、一
四	阿部 悟郎	昭和四四、四、三一、〇
四	渡辺 邦雄	〃四五、四、一一、〇
二五	川端 武史	〃四七、四、一一、現 在

日高地方豪雨禍、風水害洞爺丸転覆(台風十五号)
日勝開発道路日高清水線として着工、浦河町荻伏村合併
日高支庁々々落成
北海道総合開発第二次五ヶ年計画発足
札幌様似間えりも準急運転開始
新冠橋完成、農業構造改善事業がはじまる
第二期北海道総合開発計画発足
沿岸漁業構造改善事業実施、日高町に鉄道開通、海岸林造成計画
十勝沖地震、北海道新庁舎落成
北海道百年記念式典、幌清橋誕生
幌泉町をえりも町と改称日高広域生活圏計画策定

4
この時この人

大正二年（一九一三）

- 川越常次郎在任

四月：苦小牧輕便鐵道線一般營業開始。

日高にクロム鉱発見

大正二年（一九一四）

七月：第一次世界大戰勃發同七年終結

・関崎不二夫（自大正三、八、至大正六、九）

大正四年（一九一五）

四月…浦河に一級町村制施行浦河町と称する日高管内最初の施行

…富川・浦河間定期客馬車開通
大正五年（一九一六）

八月：第十四日高物産共進会

三井物産幌満川河口に火力発電工場設置（日高最初の電燈）

大正六年（一九一七）

二月、浦河に日高電灯株式会社創立營業開始

…日高実業協会が新冠牧場一部解放請願

・那須正夫（自大正六、九、至大正九、六）

大正七年（一九一八）

：日高水産組合設立

浦河町小林哲本郎日高民報創刊

九月：静内に庁立日高農事試験場設置

大正八年（一九一九）

四月…平取村八ヶ村戸長役場より右左府戸長役場を分離した。

浦河支庁々舎新築

大正九年（一九二〇）

・近藤喜寛（自大正九、六、至大正一〇、五）

十月：第一回国勢調査

…日高実業協会幌型自動車購入日高街道疾走、日高国の自動車導入の最初

大正十年（一九二一）

・高井幸次郎（自大正一〇、五、至大正一三、一二）

大正十一年（一九二二）

七月…摂政宮殿下新冠牧場御成

…浦河に日高高等国民学校創設

大正十二年（一九二三）

三月…日高拓殖鉄道株式会所設立

四月…全道戸長役場制度は廃止となり、本道の自治制施行、新冠、右左府、平取に二級町村制施行、

六月…道立静内病院設置

九月…関東大震災

…乗合自動車が始めて日高国道運行開始

大正十三年（一九二四）

四月…静内村に一級町村制

九月…佐瑠太厚賀間の拓殖鉄道開通

…北日本自動車株式会社設立

・吉田正二（自大正一三、一二、至昭和二、七）

大正十四年（一九二五）

四月…普通選挙法可決

十月…第二回国勢調査

十一月…様似村配電線路完成送電

十二月…荻伏小学校附属農場荻舎設立し乳牛の飼育を始めた。全国小学校の勤労教育の模範となる。

大正十五年

（一九二六）

昭和元年

四月…道内各地に青年訓練所を設置

十一月…厚賀、静内間の鉄道開通

十二月…二十五日大正天皇崩御、年号昭和と改む。

…全道的冷害凶作

昭和二年（一九二七）

四月…第二期北海道拓殖計画実施

・茶谷幸一（自昭和二、七、至昭和四、五）

八月…日高拓殖鉄道は苫小牧軽便鉄道と合せ国有となり日高線と改称広軌となった。本年完成の苫小牧、静内間七九・三キロ。

昭和三年（一九二八）

二月…普通選挙法の改正、最初の総選挙、

五月…日高畜産組合設立

…御大典記念日高産業共進会浦河町に開催

昭和四年（一九二九）

四月…門別村に一級町村制が布かれる。

・守屋葵清（自昭和四、五、至昭和五、八）

…荻伏村は模範村として沢田牛麿長官より表彰される

…日高高等国民学校は浦河実業専修学校と改称。

昭和五年（一九三〇）

三月…浦河漁港竣工

・森本正雄（自昭和五、八、至昭和七、二）

十月…第三回国勢調査

昭和六年（一九三一）

八月…日高国代表者西霊社創設覚書起草、於浦河支庁

九月…日高町村長会において覚書により霊社造営について申合せ、満州事変勃発。

十月…静内村町制実施

…日高自動車株式会社会社経営により様似・幌泉間のバス運行開始。
…凶作。

昭和七年（一九三二）

・永山政能（自昭和七、一、至昭和八、一二）

一月…上海事変勃発。西霊社造営の申合事項検討して実行に移る。

四月…浦河実践女学校設立。

八月…浦河支庁を日高支庁と改称。

澄宮殿下新冠、西舎兩牧場にお成り、沿道奉迎の民で埋まる。

九月…西霊社竣工。翌年西神社と改称、十年、西神社落成、遷宮祭執行。幌泉港完成。

十月…岩知志・日高村間の沙流川右岸道路竣工、翌年開通。

昭和八年（一九三三）

三月…えりも以東三陸大津波災害

四月…様似村は特別指導村に選定される。日高運送社創立。

・前田豊次郎（自昭和八、一二至昭和一二、八）

十二月…静内・三石間の鉄道開通

昭和九年（一九三四）

六月…様似村漁港竣工

十一月…黄金道路完成（日勝道路全通）

十二月…幌満川水力発電株式会社創立（第一発電所完成）

…門別台地に由仁団体酪農村建設の目的で十七戸入地

…支庁長を中心に日高開発産業五ヶ年計画の方策を樹立、西舎村幌別川鮭孵化場は日高水産組合より道庁に移管

昭和十年（一九三五）

三月…最新式鋼橋の静内橋竣工

四月…様似等澗院保存物として道庁より指定

八月…青年訓練廃止して青年学校発足

十月…第四回国勢調査

三石浦河間の鉄道開通

十一月…道第二期拓殖計画改訂意見書提出。

十二月…幌満発電所日高全町に電力供給

昭和十一年（一九三六）

四月…浦河実践女学校は町立浦河実科高等女学校と改称。

十月…日高幌別橋竣工

昭和十二年（一九三七）

六月…土人保護法により教育廃止、和人同様の教育実施

七月…日華（支那）事変勃発

八月…浦河・様似間の鉄道開通ここに日高線は全道

…軍隊の駐屯、舟艇庫の建設（浦河）

・野々瀬恵一郎（自昭和一二、八、至昭和一五、六）

昭和十三年（一九三八）

四月…三石村に一級町村制施行

国家総動員法公布戦時色濃厚となる。

昭和十四年（一九三九）

十二月…日本赤十字浦河病院が開院

…第二次世界大戦勃発

…えりも灯台に氣象観測所の裝置を設けた。

昭和十五年（一九四〇）

・織田信知（自昭和一五、六、至昭和一七、一〇）

十月…第五回国勢調査

十一月…幌満第二発電所日高工場竣功

昭和十六年（一九四一）

三月…庁立静内農業学校設立

四月…小学校を国民学校と改称

十二月…太平洋戦争に突入（二〇年八月終戦連合軍本道に進駐）

昭和十七年（一九四二）

一月…物資統制令発動による衣料の切符制実施。

・古屋 裕（自昭和一七、一〇、至昭和二二、一）

昭和十八年（一九四三）

二月…右左府村は日高村と改称した。

六月…本道において二級町村制廃止

八月…国鉄様似自動車営業所開設、様似、広尾間に省営バス開通

十二月…選挙法改正、満二十才以上の総べての男女に選挙権付与。

…幌満ゴヨウマツ自生地、天然記念物に指定。

昭和十九年（一九四四）

三月…町立浦河高女を道に移管、庁立浦河高等女学校と改称

…道南バスが運行

昭和二十年（一九四五）

七月…米機空襲、日高沿岸一帯に戦災をうく

八月…太平洋戦争終結

十月…米軍小樽港に上陸、本道進駐

第六回国勢調査

十二月…農地開放に関する指令発布

昭和二十一年（一九四六）

・大塩 紘（自昭和二二、一 至昭和二二、一二）

四月…戦後第一回の総選挙

五月…平取村に一級町村制が布かれる。

十一月…日本国憲法公布

・吉田栄吉（自昭和二二、一一、至昭和二三、三）

十二月…農地委員会発足、農地改革がはじまった。

昭和二十二年（一九四七）

・土橋武士（自昭和二三、三、至昭和二四、九）

四月…法律第六十七号を以て町村制廃止、地方自治法公布。選挙法改正に伴い新選挙法による知事、市町村長、衆参議院議員地方議員の公選行わる。北海道庁廃止北海道となる。

五月…新学制により高等科廃止、新制中学校開設、これに伴い国民学校を小学校と改称。日本国新憲法施行。
十一月…庁立浦河高等女学校は道立となる。

昭和二十三年（一九四八）

四月…道立浦河高等学校開校

七月…教育委員会法公布

十月…道教育委員公選

十一月…開道八十年祭札幌で挙行、日高総合開発期成会誕生

十二月…新警察制度(国警、自治体警)の二本建となり発足

昭和二十四年(一九四九)

・川崎久輝(自昭和二四、九、至昭和二六、九)

…総選挙施行

昭和二十五年(一九五〇)

六月…北海道開発庁発足

十月…第七回国勢調査

十一月…日高種畜牧場用地の一部解放に伴い開拓地として指定入植を開始(上梓白)

昭和二十六年(一九五一)

四月…三石村町制施行

七月…北海道開発局発足。市町村農業委員選挙実施。

九月…シベチャリ城趾道教委より史蹟名勝天然物として指定。

・佐々木茂一(自昭和二六、九 至昭和二八、一二)

…北海道総合開発第一次五ヶ年計画樹立、二十七年四月より実施)

昭和二十七年(一九五二)

三月…十勝沖大地震あり被害甚大

アポイ岳高山植物群落、特別天然記念物に指定。

四月…様似村、門別村に町制施行

対日講和条約、日米安保条約発効

五月…北洋漁業再開、船団函館を出港。

十月…総選挙施行。道内の農地改革が終わる。

十一月…各町村に教育委員会設置

昭和二十八年(一九五三)

四月…総選挙施行

五月…日高地方風水害

八月…西神社西舎に遷宮、藤波神社に合祀、西舎神社の祭神となる。

九月…十三号台風来襲、被害甚大

…日高支庁八十周年記念式典挙行

・長沢豊太郎(自昭和二八、一一、至昭和二九年六)

十一月…シャクシャイン三百年祭挙行(静内)

昭和二十九年(一九五四)

一月…日高線客貨車分離ジーゼルカー運行開始

二月…道畜産振興審議会分科会で日高は本道初の高度集約酪農地帯に指定、ジャージ地区に設定推薦された。

四月…日高地方豪雨禍、被害六億三千万円余

五月…西忠義翁の記念碑除幕式、日高実業協会解散。風水害。

・前野 穰(自昭和二九、六、至昭和三〇、五)

六月…暴風雨、警察法制定国警、自治体警合併

九月…台風十五号来襲、青函連絡船洞爺丸転覆、幌満川第三発電所完成

十一月…平取村町制施行

昭和三十年(一九五五)

三月…道知事田中敏文三選、道議、市町村議、市町村長選挙

四月…本道は戦後最大の豪雨禍

・佐々木延男（自昭和三〇、五、至昭和三一、四）

十月…道南暴風雨被害大。第八回国勢調査。

十二月…日勝開発道路、主要道々、日高清水線として着工。

昭和三十一年（一九五六）

九月…三十日町村合併促進法により萩伏村は浦河町に合併新町建設に邁進。総面積六九三平方杆 人口二万二千余人

…ゲルバー式工法による永久橋沙流川橋竣功。延長四〇一米。

昭和三十三年（一九五八）

一月…道の一般会計予算五〇〇億超過。日高支庁々舎落成。

十一月…浦河町は「地方自治団体優良事蹟の顕彰」で知事表彰をうけた。

昭和三十三年（一九五八）

四月…第一期北海道総合開発第二次五ヶ年計画が発足。

・斎藤一也（自昭和二三、四、至昭和三四、八）

五月…衆議院議員選挙、最高裁判所裁判官国民審査。

七月…北海道大博覧会開催（札幌市、小樽市）

日高管内に大狩部、日高、東別、蓬栄、絵笛の四つの新駅が開設された。

九月…二十二号台風来襲

…本年度より三ヶ年計画で「北海道特殊地帯地下資源調査」の第一次調査地区に指定された。

昭和三十四年（一九五九）

一月…幌泉村町制施行幌泉町として発足。

町村行政運営の功績顕著優良町村として浦河町が全国町村会定期総会席上で全国表彰の栄誉を担った。

四月…知事、道議、町議の選挙。

六月…札幌、様似間えりも準急行運転開始（但し毎週土、日）

・鈴木勘蔵（自昭和三四、八、至昭和三六、四）

昭和三十五年（一九六〇）

四月…日高準急行札幌・様似間運転開始。

七月…日高消防総合訓練大会開催（静内）

十月…第九回国勢調査

十一月…衆議院議員選挙、最高裁判所裁判官国民審査、浦河町投票率七七、九%日高管内最高の成績

十二月…「第二回、村づくり、町づくり北海道研究集会」が道及び道教委主催で札幌市に開催。

昭和三十六年（一九六一）

二月…浦河町議会は組織運営の優良の故を以て全国町村議会議長会より全国初の輝く表彰をうけた。

蓋しこの表彰は町村議会の健全な発展を図るために設置したものである。

・加畑長一（自昭和三六、四、至昭和三八、五）

六月…農業構造改善事業がはじまる。

九月…新冠村に町制施行

十一月…新冠橋永久橋として完成

昭和三十七年（一九六二）

七月…参議院議員選挙

九月…九号、十号、十四号台風襲来、被害甚大。

十一月…日高村に町制施行

昭和三十八年（一九六三）

二月…第二期北海道総合開発計画発足（八ヶ年）

四月…知事、道議選挙

・安田貴六（自昭和三八、五 至昭和三九、四）

十一月…総選挙(衆議院議員)

…苫小牧工業港において入船式挙行

昭和三十九年(一九六四)

・中山忠衛(自昭和三九、四 至昭和四二、五)

四月…日高管内沿岸漁業構造改善事業実施

十月…オリンピック大会東京で開催

十一月…日高町に鉄道開通

…日高支庁は日高沿岸に海岸林造成五ヶ年計画立案四十年度より実施

昭和四十年(一九六五)

四月…農林省日高種畜牧場は全面的に乳牛育成牧場に転換した。

七月…参議院議員選挙、川村清一当選、日高管内最初の国会議員が浦河町より誕生

九月…三石町基九十周年記念式典挙行

十月…第十回国勢調査

日勝道路十年がかりで完成、開通式挙行

十二月…青年の道場として日高判官館青年の家新冠に建設。

昭和四十一年(一九六六)

十月…北海道百年のテーマ、スローガンは「風雪百年輝く未来」と決定した。

昭和四十二年(一九六七)

一月…道の一般会計予算二、〇〇〇億円、国会解散による衆議院議員選挙

四月…知事、道議の選挙

五月…道章、道旗が制定される

・山田光男(自昭和四二、五 至昭和四四、四)

…新冠泥火山(日高新山) 道文化財として天然記念物に指定された。

昭和四十三年(一九六八)

五月…一九六八年十勝沖地震発生

六月…北海道大博覧会開催

七月…参議院議員通常選挙

八月…北海道新庁舎が落成した

九月…両陛下を迎え札幌市円山陸上競技場において、北海道百年記念祝典が挙行された。

十二月…幌満トンネル国道切替で無用となり新たに幌満橋誕生

昭和四十四年(一九六九)

・阿部悟郎(自昭和四四、四 至昭和四五、四)

…北海道第二世記の第一年、明るく住みよい日高建設への新たな第一歩

二月…第六回全道青年団研究大会静内町で開催。

六月…浦河町福祉センター完成、日高管内随一の近代的施設、その規模全道町村においても第一級

十一月…平取開町七十周年記念式典挙行。

日勝道路日高清水線一般国道に昇格、二七四号線と改称。

十二月…衆議院議員総選挙。

昭和四十五年(一九七〇)

一月…低気圧災害、日高沿岸各地高波襲来で被害甚大、被害総額約十億円。

・渡辺邦雄(自昭和四五、四 至昭和四七、四)

四月…日高山系国定公園指定促進期成会設立。

…第二期総合開発計画最終年度、清新雄大な構想の下に生産と生活の調和のとれた本道建設のための第三期総合開発計画の策定。

九月：浦河・大樹開産業開発道路開削、起工式挙行。

…静内町開基百年記念式典挙行。

新冠発電所建設工事着工。

十月：幌泉町をえりも町と改称、開基九十周年記念祝賀式典挙行。

第十一回国勢調査、日高管内各町の人口何れも減。

十二月：沙流川源流原始林が文化庁より天然記念物に指定される。

昭和四十六年（一九七二）

第三期総合開発計画発足。

二月：日高地方振興協議会設立、七月正式に発足。

四月：統一地方選挙、知事、道議、町議。堂垣内尚弘北海道知事に当選。

五月：日高管内選出の道議杉本栄一道議会議長に選出される。

日高選出の道議が議長に選出さるたのは故坂東秀太郎に次いで二人目。

六月：参議院議員選挙。

九月：台風二十六号による日高地方の被害約四億に達する。

昭和四十七年（一九七二）

二月：札幌オリンピック冬季大会

一、二六〇二七沿道の日高の民聖火を歓迎する

・川端武史（自昭和四十七年四 至昭和 〃）

八月：第二十三回全道青年大会浦河町で開催

第二十一回全国青年大会予選会

九月：日高支庁に広報車こだま号配置となり広報活動活発、様似町開基百七十年（町制二十周年）門別町開基百年記念式挙行

…日高支庁開設百年を迎える。

十月：新冠種畜牧場百周年、荻伏地区開基九十周年記念式挙行

十二月：衆議院議員総選挙

…管内第一の静内長大橋完成

二 拓土の拡大

1 開拓開墾

明治四十三年第一期拓殖計画が樹立して殖民費に六四三万円を計上し、本件に関する計画及び目標として、「地形の測量、殖民地撰定及区劃、土地処分及び整理、移等を挙げているが、このうち重要なものは土地処分で、実に一六四万町歩の国有未開地及同返還地を処分し、この間に約一七七万の人口を吸収し、明治五十七年に於ける北海道人口を三三二万に達せしめる」と説明し、さらに土地改良並に排水工事による増収を図ることを見込んだ。

さらに昭和二年の第二期拓殖計画においては殖民費がぐまれ、このうち移住奨励費が重要なものとなっている。
北海道への移民は開拓時代迄は殆んど官の保護移民で、明治二十年代以後は資本金家や先着者の誘導によって来住した自由移民である。

日高への移民は僅かながら江戸時代の末から見られるが、すべて個人移住に過ぎなかった。これが団体移住となったのは開拓使の時代から三県時代にかけてで、赤心社の荻伏村移住はそのよき例である。それ以後は再び個人移住となって大正に及んだ。しかし大正末期からはそれも限界に達した。これは従来の移住者の開拓地として選ばれたところが沃土を蓄積し、かつ内陸への往来のできる河川の流域の沃地であったからその適地も限られ、従って新たに移民の収容地は根柢のような辺地か、従来の開拓地の奥地、さもなくば泥炭地、火山灰地など放置されていた土地などが多くなって、保護移民によらなければ到底定着して経営することは困難の現状となった。

一面、農村の階級分化が進んで小作者が増加してきたことは単なる社会問題だけでなく、地力の減耗、耕作放棄という点からも真剣に考慮されなければならない問題である。

つまり殖民政策は全国的な自作農維持政策の一環をなすものであって、新たな移民をして自作農たらしむるべく扶植させようと